



## 日本でいちばん最初にできた学校はどこなの

### 1869年(明治2年)から京都の二十七番組小学校

小学校という名を初めて使って、開校したのは、京都の上京第二十七番組小学校(現・柳池中学校)です。開校は1869年(明治2年)で、学制が定められる3年前のことです。1871年(明治4年)ごろは、小学校に通学する子どもは、男子約40%、女子約15%くらいでした。

### 1875年(明治8年)に京都の柳池幼稚園が

正式には1872年(明治5年)に「学制」が定められて、それまで寺子屋のようところで勉強していた子どもたちは、その後から、学校とよばれるところで学ぶようになりました。その学校は「幼稚園」、「小学校」、「中学校」にわかれます。

幼稚園は、幼稚小学の規定というものがもりこまれましたが、最初はどこも開校しませんでした。3年後の1875年12月になって、京都の府立第三十区小学校(今の市立柳池中学校)のかたすみを借りて始めました。この幼稚園は、1年半で休校になりましたが、これがわが国最初の幼稚園で、今の京都市立柳池幼稚園のもとになったのです。

中学校は小学校の卒業生を入学させ、さらに、教育する機関とされました。最初の学校は、1870年(明治3年)12月開校の、京都府中学(後の京都一中、いまの府立洛北高校)です。そうして、1886年(明治19年)に尋常中学校(5年)と高等中学校(2年)にわかれましたが、尋常は公立で各都道府県に1校ずつおかれ、高等の方は1952年(昭和27年)に高等学校となりました。(監修・保岡 孝之)

